

朴ほおの木

万葉植物（森戸川林道）1

日本の最も古い歌集「万葉集」は、天皇から庶民しよみんに至る、あらゆる階層かいそうの人の歌が集められています。その中に詠まれた植物を「万葉植物」と言います。歌の数は二十巻 約四千五百首 詠み込まれた植物が百六十種類余りあります。

先ずは森戸川林道の植物から見て歩きましょう。

我が背子せこが 捧ささげて持てる ほほがしは

卷一九

あたかも似るか 青あおき蓋かき

僧えん恵ぎ行ぎょう

4204

歌意へあなたが高く捧ささげてお持ちの朴ほおの木の枝は

まことに良く似て居ますね青あおい蓋かきに

蓋かきは主人の後ろから差しかける傘で、青あおい絹張きぬはりりは最も高貴こうきな人が使う蓋かきです。ホオノキの枝先に集まって互生ごせいする葉が、蓋かきに見えるのです。

林道の一の橋から約百メートル歩くと右の崖がけの上に朴の木があります。〈包ほおの木〉や〈大おおの木〉などが語源ですが、葉も大きく、花は日本の落葉樹らくようじゆでは最大で、少し黄色味を帯びた白い花です。葉が器に使われたので、古代の名を〈ほほがしは〉と言います。まさに「包の木」です。植物名にカシワの入るものには器の歴史があります。

北アルプス穂高岳山荘の弁当のお握りは、緑の朴の葉に包まれた胡桃くるみ入りのおこわでした。西穂高に向かうジャンダルムで食べた味は素晴らしく、忘れられぬ味覚です。花は五〜六月ですが葉の上で咲くので下からは見えません。モクレン科の植物です。

蓮・里芋

万葉植物 〈長柄の里〉 1

蓮葉は かくこそあるもの 意吉磨が 長忌寸意吉磨
家にあるものは 芋の葉にあらし 卷十六 3826

歌意 へ蓮の葉と言うのはまさにこんな姿のもので、

意吉磨の家にあるものはどうやら芋の葉のようだ

蓮の葉は美人、芋の葉を妻に例えた、道化の譬喩歌。

「芋」は里芋です。「里芋」は有史以前に渡来した芋ですが、それまで日本には山芋以外の芋は無かったので、畑、すなわち「里の芋」と、「山の芋」の区別をして付けられた名前です。

蓮は蜂の巣に似ているほど実が多いので、原始的な植物とされています。一つの花に実となる雌蕊の数が多く、蜂の巣状に生る、ので「ハチス」なのです。

宴席の料理の受け皿として使われた蓮の葉が、綺麗な「酌婦」で、我が家のかみさんを厚ぼったい里芋の葉に準えた座興の歌です。

芋の話はさておき、意吉磨は宛ら宴会の芸能部長のような方です。座興に出された題詠を即興でまとめる人で、「此処に有る食器、家具、橋、と聞こえる狐の鳴き声ですぐに歌を詠め」と言われ、

「さし鍋に 湯わかせ子供 標津の檜橋より来む 狐に浴むさむ」へ歌意・差し鍋に湯を沸かせ者ども、標津の檜橋をコンコンと渡ってくる狐めにぶっかけてやるのだ」と即座に歌を詠んだそうです。カラオケの名人とは違った素養が無いと勤まらない、太鼓持ですわね

蓮は葉柄が葉の真裏の真ん中にある変わった植物です。